



森づくりサポーターニュース

令和2年(2020年)12月20日号

びわこ地球市民の森(森づくりセンター)

〒524-0102 守山市水保町2727 TEL 077-585-6333 FAX 077-585-6312
 メールアドレス biwako@moridukuri.info URL <http://www.moridukuri.info>

森の散策コースと見どころ紹介(3)

12月になりました。全国ではGoToトラベルもあり、各地で新型コロナウイルスの感染が拡大しています。滋賀県も12日の段階で857人の感染者が確認されました。

その中でこの秋、サポーターの皆さん、県内企業のCSR活動の方々、保育園、こども園、幼稚園、小学校の子どもたち、そして一般の来園者と、沢山の皆さんにクヌギのドングリをはじめ多くの秋の実りを見つけ、拾って楽しんでいただきました。その森で葉っぱが落ちはじめました。いよいよ12～2月、冬の森の始まりです。

びわこ地球市民の森に植樹した苗木約16万本の、落葉樹と常緑樹の比率は7:3です。ふれあいゾーンに常緑樹の森の区域を造りましたので、残りは明るい落葉樹林と落葉樹主体の混交林です。これらの樹林は、どんどん落葉して全体に明るい森になります。



まっすぐに伸びたクヌギ(左右)



横に伸びたセンダン(右)

どのゾーンも同じですが、冬の森はまず個々の「木の形」を観ましょう。大きな木では、クヌギはまっすぐ上に伸びます。センダンは手を広げたように枝を広く横へ伸ばします。葉っぱがあるときでも木の下から見るとその形がわかりますが、葉が落ちると離れたところからでもクヌギやセンダンとはっきりわかります。



クヌギ(幹)



ヤマザクラ(幹)

次に「木のはだ」です。クヌギやナラガシワなどはでこぼこの縦すじがあり、ヤマザクラやヤマモミジはつるつるしています。ヤマザクラの幹は点線の輪が幾重にも重なっているように見えます。他の木々の「形やはだ」も見比べてみましょう。



これからも葉が取れないカシワ

また、カシワの葉は枯れたまま春に新葉が出るころまで枝についています。これは、樹木が落葉する時に葉と茎の間に離層ができて葉が脱落するのですが、ブナ科の樹木はこの離層が不完全なことが多く葉が枯れても落ちないことがあるのです。中でもカシワはクヌギ、アベマキ以上にしっかりくっついていて取れません。園内を歩いて見つけてください。

次は「冬芽」の観察です。冬の間、冬芽は木枯らしや雪にさらされながらじっと耐え、やがて来る春を待っています。また、冬芽は落葉樹だけでなく、常緑樹にもちゃんと付いています。「花芽」や「葉芽」そして葉の落ちたあと(葉こん)の形などを観察して下さい。



コブシ(冬芽)



センダン(葉こん)

樹木生長調査結果報告

びわこ地球市民の森では、出会い、里の森、ふれあい、つどいの4つのゾーンで、平成13年から25年までの13年間に延べ44,994人の多くのサポーターの皆さんの手によって、90種160,967本の苗木を植栽しました。これらの樹木が将来にわたり健全に育成するため、森全体で79か所のプロット(5m四方)を設定し、3年ごと(平成23年度までは2年ごと)に樹高や本数調査を実施しています。

今年度は28か所のプロットを調査しましたので、そのうち各ゾーンの代表的なエリアについて調査結果を報告します。

1. 調査内容

出会いのゾーン5か所、里の森ゾーン6か所、ふれあいゾーン10か所、つどいのゾーン7か所、計28か所(プロット)の樹木の樹高を測定し、生長推移や生育本数等を調べ、今後の管理方法を考察しました。

なお、標準とする樹高、生育本数の数値は、「地味の低い土壌条件下で生育した樹林のデータによる予測」(緑化・植栽マニュアル、中島宏著)を参考としました。

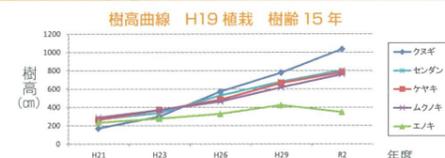
2. 調査結果(各ゾーンの代表的エリアを紹介、樹高・生育本数は平均の数値)

つどいのゾーン(T1~4のエリア)

- ・旧森づくりセンター西側の森
- ・樹高 8.6m(標準 6.5m)、クヌギ 13m・スダジイ 10mで生長良
- ・生育本数 25本/100㎡、密で早期に間伐必要

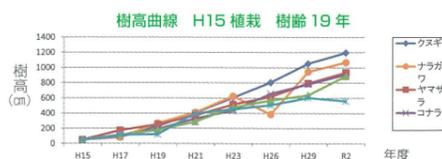
出会いのゾーン(D3~6のエリア)

- ・モリモリ山の西側の森
- ・樹高 6.6m(標準 5.0m)、特にクヌギ 10mで生長良
- ・生育本数 61本/100㎡、密で早期に間伐必要



ふれあいゾーン(F8~11のエリア)

- ・園路北側の落葉広葉樹林地
- ・樹高 10.1m(標準 6.3m)、クヌギ・ナラガシワ生長良
- ・生育本数 32本/100㎡、密で早期に間伐必要



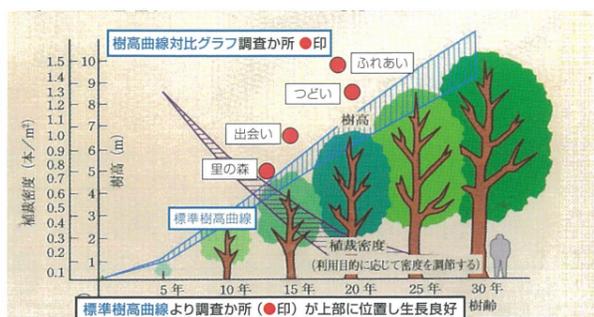
里の森ゾーン(S5~8のエリア)

- ・森づくりセンター南側の森
- ・樹高 4.9m(標準 4.0m)、センダンの生長著しい
- ・生育本数 38本/100㎡、今後計画的間伐必要



3. 考察

- 樹高は、標準(地味の低い土壌条件下のデータ:右表青線の標準樹高曲線)に比べて1~6割(平均3割)程度生長良
- 生育本数は全体的に多く、今後さらに計画的間伐が必要
- 全体的に、常緑樹ではアラカシ、シラカシ、スダジイ、落葉樹ではクヌギ、コナラ、ナラガシワの生長良
- 生長著しいセンダンが他の樹種を圧倒しているため優先的に間伐必要



びわこ地球市民の森で自然体験キャンプ(秋)

新型コロナウイルス感染防止に努めながら、家族を対象に3つの自然体験事業を実施しました。

「秋の生き物観察会」は、お話とクイズの後、「生き物大捜索」と題し、家族毎に虫アミと虫カゴを持ってフィールドに出かけました。バッタやトンボなどを採集し、それを図鑑で調べて発表しました。そして採集した生き物から1匹を選び、「家族対抗生き物運動会」を開催。スタート地点からどの家族の生き物が速くゴールにたどり着けるかを競いました。中にはカエルやトンボを選出した家族もおられました。結果、バッタが優勝しました。

「どんぐりであそぼう!」は2~3歳の幼児とお母さんが対象です。鳥の鳴き声を聞きながら森を歩き、どんぐりを探して集めました。お母さん方には、自然体験の効果や安全な森の遊び方などをお話しながらの活動です。最後に採集したどんぐりを子ども達が地面に自由に列べて作品を作りました。

「森のようちえんファミリー・秋」は、森のハロウィンパーティーと題して仮装し、森の散策とお菓子集めで楽しみました。ハロウィンの合い言葉「トリック・オア・トリート」(お菓子をくれなきゃイタズラするよ)ではなく、子ども達が今日の活動で頑張ったことを森の番人に伝え、お菓子をもらえる設定にしました。最後のポイントでは、間伐体験として、カボチャのおもちゃをぶら下げた木を家族で協力し切り倒しました。

冬季は小学生対象の「ウィンターキャンプ」等を予定しています。



家族対抗生き物運動会



親子でどんぐり拾い



森のハロウィンパーティー



お話とクイズ(秋の生き物観察会)



生き物大捜索①(秋の生き物観察会)



生き物大捜索②(秋の生き物観察会)



どんぐり並べ(どんぐりと遊ぼう)



ハロウィン仮装(森のようちえん)



森の間伐体験(森のようちえん)



森の手入れ (育樹活動) 一問伐一 樹の倒し方

①受け口を入れる ②追い口を入れる ③周囲を確認し、声をかけて、倒れ始めるまで鋸を引く

倒れ始めたら離れて安全確保

← 倒す方向

この部分が蝶番の役目をします

2年生の苗木が植樹されてから、つどいのゾーンの最初のエリアは19年、里の森ゾーンの新しいエリアで7年経ちます。

樹木の間には風や光を取り込み森全体を健全に育てるために、また公園として安全を確保するために、間伐 (間引き) はとても大切な活動のひとつです。

樹は、だんだん太く高くなりますが、安全第一で！
ノルマはありません。無理せず、楽しみながら、協力し合いながら、ノコギリを使って、息を切らせましょう！！

お知らせ

第4回森づくりサポーター活動のご案内

早春の森が皆さんのお越しをお待ちしています。

開催期日：令和3年3月6日(土)

開催場所：びわこ地球市民の森 (里の森ゾーン)

活動内容：植栽地の育樹活動と自然教室など



*新型コロナウイルスの影響で、活動内容を変更したり中止になる場合がありますのでご了承ください。

編集後記

今年はコロナで始まり、コロナで終わろうとしている大変な1年でした。

サポーターの皆さんには活動の自粛などで大変ご迷惑をおかけしたと思います。

とりわけ、サポーター活動は台風などの影響もあって1度も開催することができず本当に残念でした。

来年は、森が誕生して丸20年となります。この記念すべき年に、多くの皆さんが森に集い、元気な歓声が森一杯にあふれることをスタッフ一同祈っています。

森のデータ

森の面積	42.5ha
森の延長	3.2km
森の幅	100 ~ 200m
植樹面積	80,808 m ²
植樹期間	H13 ~ H25
植樹活動参加者数	44,994 人
植樹本数	160,967 本
森への利用者数 (R1)	232,135 人
森づくり活動参加者数 (R1)	8,036 人
うち育樹活動参加者数 (R1)	3,078 人